

# 行政が発信する情報の認識に対する影響要因に関する研究

秋田大学 学生会員 ○三浦 充博  
秋田大学 正 会 員 日野 智  
秋田大学 正 会 員 木村 一裕

## 1.はじめに

まちづくりにおいて、計画の質の向上と市民への計画の理解を目的として市民参加が行われている。しかし、多くの都市では幅広い参加には繋がっておらず、目的を達成できているのか疑問が生じている。一方、市民参加には行政からの情報発信が重要であると考えられるが、情報発信への不満が過去に建設省が実施した調査などから指摘されている。このことから、情報発信の不満を解消することが、事業への関心を向上させ、市民参加への一助となると考えられる。

本研究では行政が発信する情報に対する認識に着目し、情報の認識に影響する要因を明らかにするものである。また、情報の認識から市民参加までのプロセスに着目し、市民参加を促すための方策についても検討する。

## 2.本研究における意識調査の概要

本研究では市民の行政からの情報発信に対する意識として、1)属性・2)情報源の利用頻度・3)行政の情報発信に対する認識・4)市が実施予定の事業に対する認識の4区分の設問を調査した。対象地域は隣接していない秋田市内の3地域とし、直接配布、郵送回収方式で実施した。配布部数は1世帯につき2部とし、380世帯、760部に配布した。内訳は南通280部、桜・土崎港東は各240部とした。回収率は約20.4%(155部)となった。被験者の属性については、男女比はほぼ等しく、年代については10～40代は少ないものの、50代以降はある程度均等な結果となった。

## 3.行政が発信する情報に対する意識

### (1)行政が発信する情報全般への認識

調査では秋田県や秋田市など、行政が発信する情報の入手経路を質問した。「ある」とした被験者が144

票と非常に高い値であった。また、入手経路について質問した結果、「広報」が最も多く、「新聞」、「テレビ」がそれに次いでいる。

このことから、広報が行政からの情報発信手段として、根幹を成すものといえる。又、新聞については85.4%の被験者が「毎日読む」と回答しており、利用頻度の高さが反映されたものと考えられる。

次に、行政が発信する情報についての満足度を5段階で回答してもらった。評価項目は「手元に届くまでの早さ」「詳しさ」「量」「わかりやすさ」「手に入れやすさ」「総合満足度」の6つとした。総合満足度を始め全ての要素で不満が満足を上回り、行政の情報発信について全般的に不満を持っていることが明らかになった(図1)。

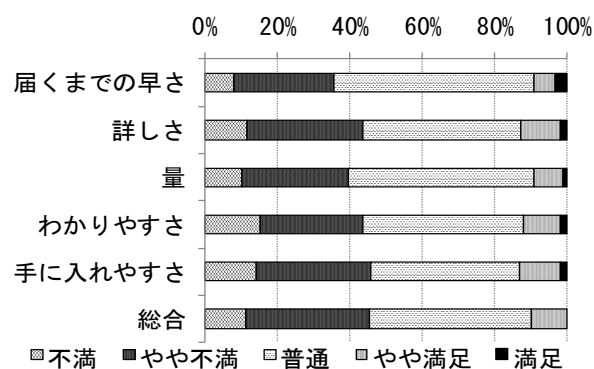
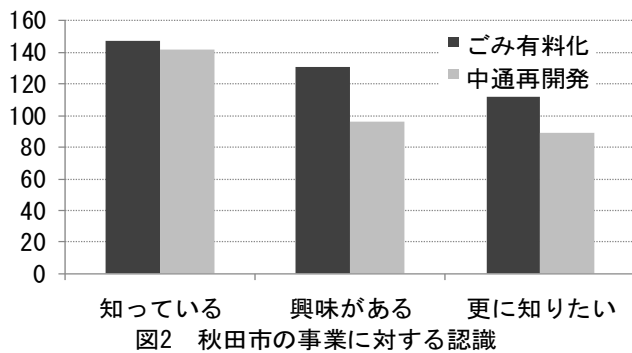


図1 行政による情報発信に対する満足度

また、情報を得るときに重視する点を質問したところ、「わかりやすさ」を挙げる被験者が最も多かった。この点から、市民は特に情報のわかりやすさを求めていることが分かる。

### (2)事業ごとの情報に対する意識の差異

調査では秋田市が実施を予定している事業に対する認識を質問した。対象事業は、駅近くの総合病院跡地に複合施設の建設を行う「中通再開発事業」と、ゴミ袋にゴミ処理費用を上乗せする「家庭ごみ有料化」の2つとした(図2)。



「中通再開発事業」では「知っている」被験者と「興味がある」被験者の数に差がみられる。これは「家庭ごみ有料化」は市民全体へ影響するのに対し、「中通再開発事業」は被験者によって影響の大きさが異なるため、興味を示さない被験者が少なくなかったと推測される。このことより、説明会を複数回にわたって開く、事業が市民にどのような影響を及ぼすかを詳細に示す、など事業内容に合わせた情報の内容や発信方法を検討すべきである。

#### 4.市民参加について

##### (1)市民参加への意識と参加経験

市民参加についての説明を表記した上で、のちに市民参加への興味を質問した。結果は「興味がある」と条件付き肯定「自分に関係があるものは興味がある」を合わせて約7割となった。また、市民参加意識については「積極的に参加したい」「興味があるものにだけ参加したい」を合わせて約6割程度になった。しかしながら、実際の参加経験を尋ねたところ「ある」と答えた被験者は約2割弱にとどまった。

##### (2)市民参加への参加意識

被験者の市民参加への関心は高いが、実際に参加している被験者は少ないものであった。その要因を明らかにするため、情報入手経験、市民参加への興味、市民参加意識、参加経験との関連を分析した(図3)。その結果、興味と参加意識を共に有しながら参加経験がない被験者が、全体の46.5%を占めた。このことから、潜在的な参加希望者が存在することが示唆される。

##### (3)情報の満足度と市民参加経験

外的基準を行政が発信する情報の総合満足度、アイテムを情報に関する項目の評価として、数量化2類による要因分析を行った(図4)。また、市民参加経験がないデータを抽出し同様の分析を行った(図5)。

市民参加の未経験者は情報の入手の仕方や用語の

理解に不慣れなため、より「手に入れやすさ」、「わかりやすさ」の評価が強く満足度に影響していると考えられる。

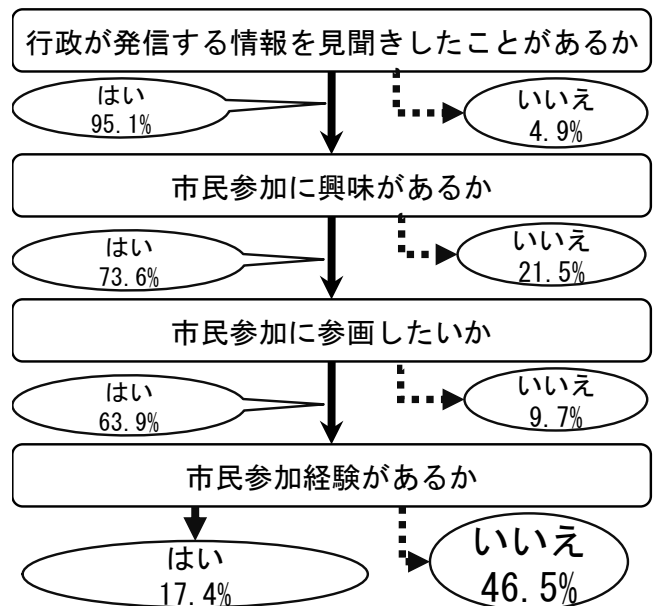


図3 情報入手と市民参加への意識の市民参加経験との関連

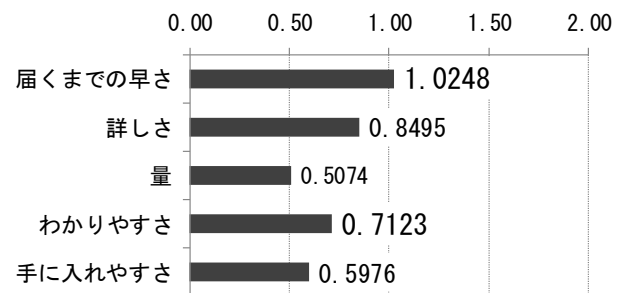


図4 情報の満足度に対するレンジ

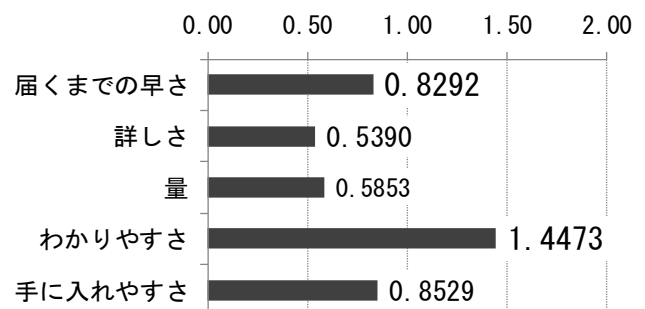


図5 市民参加未経験者を対象としたレンジ

#### 5.まとめ

分析の結果、市民参加の経験が情報の入手に重要視する要素へ影響を与えていること、潜在的な参加希望意識の存在、事業毎に情報発信に必要な要素が異なることなどが明らかにされた。現在、市民参加に対して情報の難解さが敷居の高さの一因となっていると推測される。これに対し、参加が容易な場を用意し、市民に事業に関わる経験を積んでもらうことが、より幅広い市民参加へ繋がると考えられる。